

額田王(ぬかたのおおきみ)

代表歌

秋の野の み草刈り暮き 宿れりし 宇治の宮処の 仮廬し思ほゆ (1-7)

熟田津に 船乗りせむと 月待てば 潮もかなひぬ 今はこぎ出でな (1-8)

うま酒 三輪の山 あをによし 奈良の山の 山の際に い隠るまで 道の隈 い積るまでに

つばらにも 見つつ行かむを しばしばも 見さけむ山を 心なく 雲の 隠さふべしや (1-17)

反歌

三輪山を しかも隠すか 雲だにも 心あらなむ 隠さふべしや (1-18)

あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見すや 君が袖振る (1-20)

古に 恋ふらむ鳥は ほととぎす けだしや鳴きし 吾が思へるごと (2-112)

君待つと 吾が恋ひをれば 我が屋戸の すだれ動かし 秋の風吹く (4-488)